

2. 火山の概況

(平成 15 年 12 月 4 日 ~ 平成 15 年 12 月 10 日)

期間中、5 火山の火山活動度レベルに変化はなかった。浅間山では地震がやや多い状態が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発であった。桜島では噴火があった。

その他の火山については、樽前山では地震が一時的に多くなり、熱的活動も依然活発であった。吾妻山では一時的に地震が増加した。三宅島では噴煙活動が継続した。諏訪之瀬島では噴火があった。

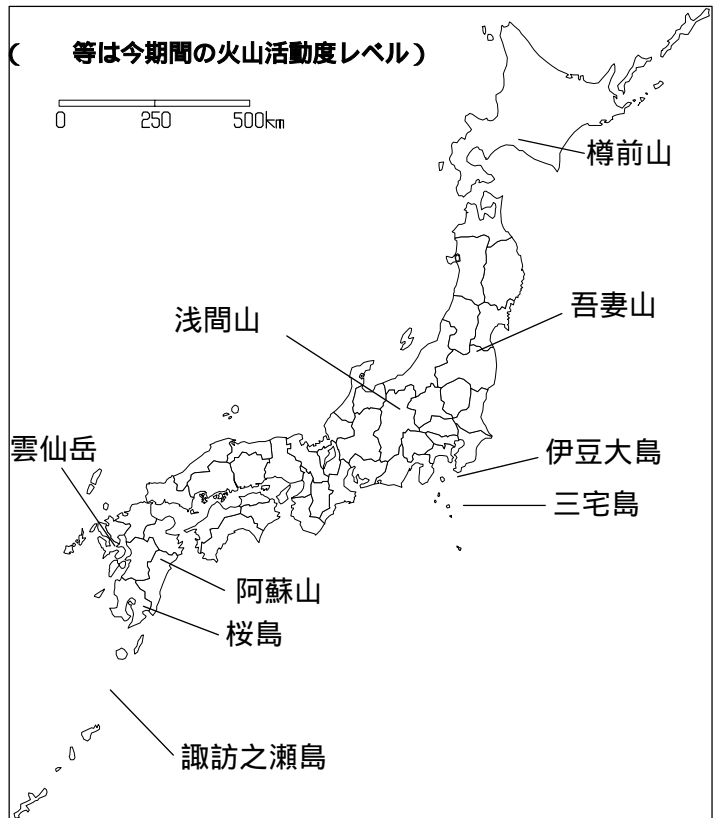


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山	伊豆大島	阿蘇山	雲仙岳	桜島	樽前山	吾妻山	富士山	三宅島	伊豆鳥島	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島	
		レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号	レベル 記号
50	12/ 4-12/10															
49	11/27-12/ 3															
48	11/20-11/26															
47	11/13-11/19															
46	11/ 6-11/12															

注1 記号の意味

- : 噴火した火山
- △ : 観測データ等に変化があった火山
- ◇ : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- の丸付き数字 : 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

樽前山 [地震・熱]

4日 23 時頃から体を感じない微小な地震が増加し、5日 24 時までの回数は 141 回となったが、地震の多い状態は一時的で、6日以降の日回数は 0 ~ 2 回と落ち着いた状態で推移した。いずれの地震も樽前山ではよくみられる山頂の溶岩ドーム直下の浅部(海拔付近)で発生したものである。1日あたりの地震回数が 100 回を超えるような活動は、2001 年 8 月 12 日(111 回)以来である。この地震活動に関して、火山性微動の発生はなく、噴煙等の表面現象にも変化はなかった。

また、5日に実施した調査観測では、A 火口の温度は約 600 (前回 11 月 11 日は約 640)と、依然極めて温度の高い状態が継続しており、山頂部の熱的な活動は引き続き活発であった。

吾妻山 [地震]

9 ~ 11 日に一時的に体を感じない微小な地震が増加した。日回数は 9 日 6 回、10 日 16 回で、11 日は明け方までに 4 回発生したが、その後は収まっている。震源は一切経山(大穴火口付近)の地下の深さ数 km と推定され、ここでは 2001 年 12 月 24 日には日回数 86 回となる地震活動が発生している。

なお、この地震活動に関して噴煙活動等の表面現象に異常はなく、GPS による地殻変動観測にも特に変化はなかった。

浅間山 [地震・微動・熱・火山ガス] レベル：（やや活発な火山活動）

6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、徐々に回数が減ってきているものの今期間も1日あたり21~44回とやや多く観測された。また、振幅の小さい微動は4日に3回、5日に1回、10日に2回の合計6回観測された（前期間は6回）。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測された。

8日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は約250トン/日で（前回（10月20日）は約200トン/日）、10,000トン/日を超える場合もあった4月頃までに比べると、その後は少ない状態が続いている。

伊豆大島 レベル：（静穏な火山活動）

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなかった。

三宅島 [噴煙・地震]

監視カメラによる噴煙の観測では、白色の噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上1,200mであった。

振幅の小さいやや低周波の地震は、5日01時台に10回、02時台に23回とまとまって観測され、当日の回数が59回となったのを最高に、1日あたり24~59回とやや多い状態で推移した。但し、これらの地震活動に伴ってその他の観測データに特に変化はみられなかった。

GPSによる地殻変動観測では、今年6月頃から再び島の収縮傾向を示している。

阿蘇山 [熱・地震・微動] レベル：（やや活発な火山活動）

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、孤立型微動が多い状態で推移した。

中岳第一火口内の状況は、9日に実施した現地観測によると、見かけ上の湯だまりの面積は約5割となっており、湯だまりの色は灰緑色で、湯だまりの中央部付近で噴湯現象が確認された。湯だまり表面の温度の最高は77と依然高い状態が続いている（前回の観測時（11月28日）は81）。また、南側火口壁の温度の最高も293と依然高い状態であった（前回の観測時は362）。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上500mであった。

地震・微動活動の状況は、A型地震が17回（前期間8回）、B型地震が86回（前期間8回）と増加傾向がみられた。孤立型微動は、6~8日にかけて100回以下となり、期間の合計でも782回（前期間1,698回）と減少した。

GPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

雲仙岳 レベル：（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

桜島 [噴煙] レベル：（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火が1回発生したが、爆発はなかった（前期間は噴火・爆発なし）。今期間の噴煙活動は、灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,100m（灰白色）まで上がるのが観測された。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

諏訪之瀬島 [噴煙・降灰・微動]

期間中、爆発はなかった（前期間も爆発なし）。しかし、連続微動がしばしば発生し、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、期間を通して御岳火口から火山灰を上げていた。また9日には、集落（御岳の南南西約4km付近）で降灰があった。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 673 号 (1日2回発表) 火山観測情報第 686 号	4日 09:30 10日 16:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
阿蘇山	火山観測情報第 30 号	5日 14:00	火山活動がやや活発(孤立型微動が引き続き多い、中岳第一火口の熱的な状態が高い)。火山活動度レベルは 2。